

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

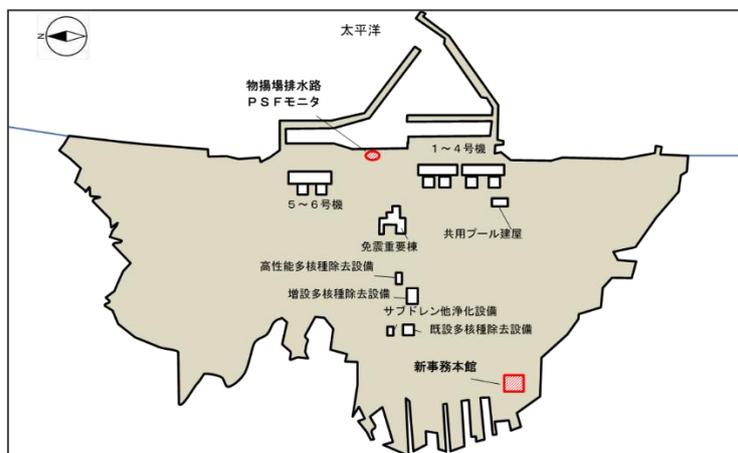
- 1 確認日  
令和3年3月9日（火）
- 2 確認箇所  
新事務本館
- 3 確認項目  
物揚場排水路ゲート開放に伴う状況確認
- 4 確認結果の概要

3月2日18時18分に物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器（以下、「P S Fモニタ<sup>※1</sup>」という。）において「高警報」が発生した。東京電力が当該排水路の水を分析した結果、ガンマ核種（セシウム137等）の濃度に対して全ベータ核種（ストロンチウム90等）の濃度が高く、汚染水の漏えいの可能性が否定できないことから、同日23時40分に物揚場排水路に設置されているゲートを閉止した。

その後、物揚場排水路の清掃が完了したこと並びに同排水路から採取した水を分析した結果、通常の変動範囲内の値であることが確認されたため、ゲートが開放されたことから状況を確認した。（図1）

- ・19時05分に物揚場排水路に設置されているゲートが開放された。なお、ゲート開放前後のP S Fモニタ指示値に有意な変動は見られなかった。
- ・東京電力によると、P S Fモニタにおいて「高警報」が発生した原因は福島第一原子力発電所事故当初に飛散した放射性物質が地中に浸透・移動し、排水路へ至ったものと推定しているとのことである。

※1 P S Fモニタ プラスチック・シンチレーション・ファイバモニタの略語であり、放射線が入射すると光を発するプラスチック製ファイバ等で構成された装置。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図